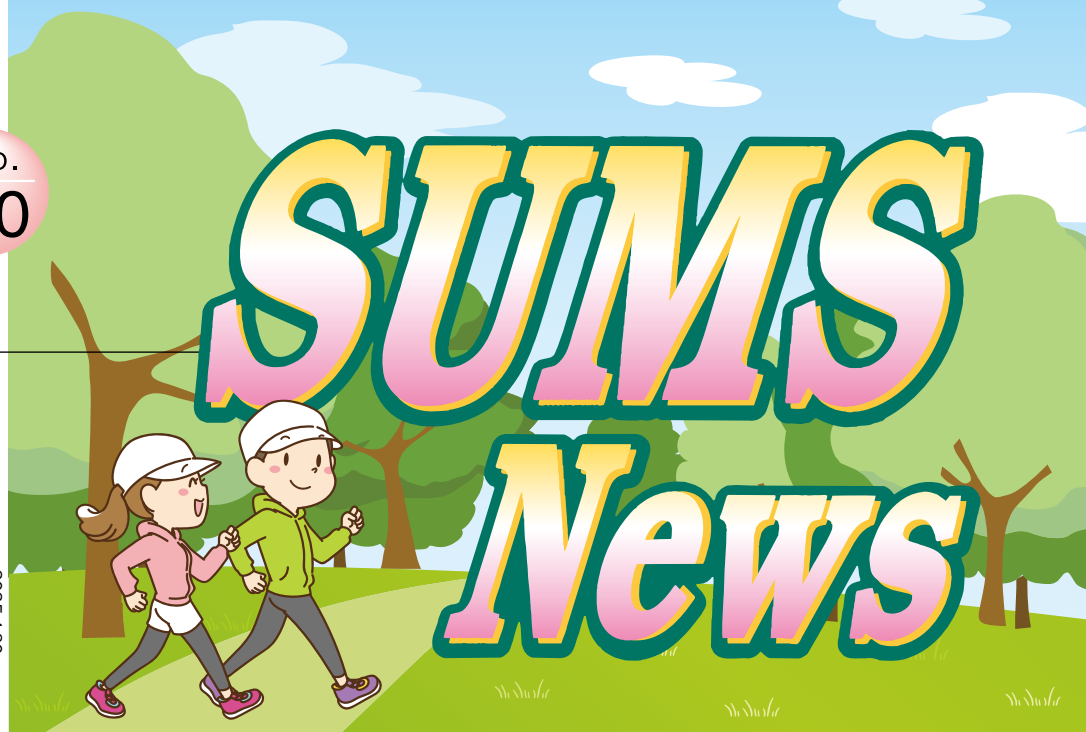




令和 7 年度 入学式を挙行了しました

4月2日(水)白子キャンパス講堂にて、令和7年度 大学院第30回、学部第35回入学式を挙行了しました。来賓の方々にもご臨席いただき、温かい祝辞を賜りました。

豊田長康学長は、「ご入学おめでとうございます。本学は日本初の4年制医療系大学として平成3年に創設され、12,000名以上の卒業生を輩出しています。建学の精神・教育の理念・5つの教育目標を達成するために最適なカリキュラムを編成しています。また、ボランティア活動への参加を評価するSUMSポイント制度を導入し、社会貢献度の高い学生を毎年表彰しているので、ぜひ挑戦してください。そして、医療・福祉のスペシャリストとして活躍するためには、資格試験の合格が不可欠です。初年度から計画的に学習し、授業への出席、予習・復習、課題やレポートに着実に取り組むことが大切です。大学院生の皆さんには最先端の研究を通じて、医療福祉の発展に貢献することが期待されています。学修や生活面で困難に直面した際は、遠慮なく教職員にご相談ください。私たちは、皆さんが充実した学生生活を送り、その努力が実を結ぶように、全力でサポートいたします。皆さんの未来が、希望と挑戦に満ちたものとなることを心から願っています」と式辞を述べました。

高木純一理事長は、「ご入学、心よりお祝い申し上げます。皆さんは、将来、医療・福祉のスペシャリストを志し本学に入学されたことと思います。今後ますます発展する医療・福祉産業で活躍するという夢を、ぜひ実現してください。そのために大切なのは、資格を取得することです。本学は『面倒見の良い大学』として教職員が一丸となって支援しますので、決して途中で諦めずストレートで卒業し、ストレートで国家試験や資格試験に合格するよう勉学に励んでください。次に、外国語、特に英語・中国語を学ぶことが重要です。世界の人口は増加し明るい未来が感じられます。海外で活躍する機会や、外国を相手に仕事をする機会がますます増えることは確実です。将来、皆さんの強い味方になるのは資格と外国語で、この二つがあれば活躍の場が限られることはありません。本学での学びを通じて、皆さんが社会に貢献できる医療・福祉のスペシャリストとして成長されることを心より期待しています。勉学以外にも、様々なことに挑戦し大いに青春を謳歌してください」と祝辞で激励の言葉を贈りました。

入学生代表として、保健衛生学部 救急救命学科の舟山大翔さんが、「私たちは、本学の恵まれた環境の中で、チーム医療の大切さを学び、最先端の医療や福祉の知識と技術を身につけるべく、日々努力を惜みせず、お互いに切磋琢磨しながら、医療人としての成長を遂げることを目指します。そして、この鈴鹿の地から、未来の医療や福祉を支え、貢献できるスペシャリストとして羽ばたきます」と宣誓を述べました。

<庶務課>

<建学の精神>
科学技術の進歩を真に
人類の福祉と健康の向上に役立たせる

<教育の理念>
知性と人間性を兼ね備えた
医療・福祉スペシャリストの育成

- <教育目標>
- ① 高度な知識と技能を修得する
 - ② 幅広い教養を身につける
 - ③ 思いやりの心を育む
 - ④ 高い倫理観を持つ
 - ⑤ チーム医療に貢献する



2026 (令和 8) 年 4 月に、薬学部 薬科学科(4年制)を設置構想中

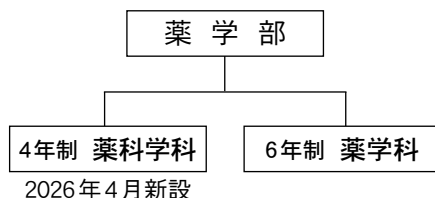
本学は、2026 (令和 8) 年 4 月に薬学部 薬科学科を設置構想中です。

医薬品、化粧品、健康食品産業は今後ますます発展していく分野ですが、それを担う人材が不足しているのが現状です。本学はこのような地域の人材需要に応えるために、長年培った薬学研究のノウハウを活かし、2026 年 4 月に薬科学科(4年制)を設置します。

本学の薬科学科は、薬学を基礎として健康と美容を科学し、医薬品、健康食品、化粧品の研究開発や品質管理、企画営業などに携わる人材を養成します。

新学科概要

名 称	薬学部 薬科学科
入 学 定 員	30 名
修 業 年 限	4 年
設 置 場 所	白子キャンパス
開設予定時期	2026(令和 8)年 4 月
取 得 学 位	学士(薬科学)



※薬科学科(4年制)では薬剤師国家試験受験資格を取得できません。

※薬学科(6年制)への転学科はできません。

※設置構想中のため、内容は変更となる場合があります。

東海学連バスケットボールリーグ・2部昇格が決定!

強化指定クラブ「女子バスケットボール部」マネージャー・保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 2年 早川 葵葉

令和 5 年度より発足した強化指定クラブ「女子バスケットボール部」が、昨秋開催の「第 95 回 東海学生バスケットボールリーグ戦・3 部リーグ」において全勝で優勝しました。

さらに 3 部リーグを 1 位通過したことで「2・3 部入替戦」へも出場し、2 戦 2 勝により 2 部昇格が決定しました。令和 5 年度に 4 部から 3 部へ、令和 6 年度に 3 部から 2 部へと、ここまで順調に進めてきており、今年度は 1 部昇格を目指します!

令和 7 年度のチームは、昨年度から継続の 2 年生 8 名に新入生 7 名を加え、総勢 15 名の選手で構成し 2 部リーグを戦います。また、新チームの始動と同時に、フィジカルトレーナーや鍼灸師・メンタルトレーナーの参画など、医療・福祉の総合大学である本学の特徴を活かした学内連携も始まりました。

女子バスケットボール部の強化指定は東海地区の医療系大学で初、三重県の高等教育機関でも初めての取り組みになります。強化指定クラブ「女子バスケットボール部」は上部リーグへの昇格を目標に取り組むことと同時に、本学在学生の皆さんからも愛されるチームを目指しがんばりますので、どうか多くの方の応援をよろしくお願いいたします。

なお、2 部リーグ戦は、例年 9 月～10 月に名古屋市内のスポーツセンターや愛知県内の大学の体育館で行われています。

※ 3 部リーグ戦では次の選手が個人賞を獲得されました。(受賞時の所属・学年)

最優秀選手賞 清川愛裕さん(看護学科 2 年) 優秀選手賞 大野優里亜さん(鍼灸サイエンス学科 1 年)



市民公開講座「スポーツコンディショニングフェス ～スポーツの達人への第一歩～」を開催

3 月 20 日(木・祝)白子キャンパスにて、スポーツにおけるケガの予防や競技力向上につながる知識を学ぶ市民公開講座「スポーツコンディショニングフェス ～スポーツの達人への第一歩～」を開催しました。当日は市民の皆さま約 30 名にご参加いただきました。

中学生ジュニアアスリートとその保護者を中心に、本学のもつ知識や技術をスポーツパフォーマンス向上に役立てていただくという初めての試みで、4 学科が共同開催しました。開会にあたり、高木久代副学長が「体の中と外の両面から、スポーツをしている方をサポートできる講座にしていきたいです」と挨拶しました。

メインイベントの学科別セミナー&体験コーナーでは、リハビリテーション学科 理学療法学専攻が「けが予防とパフォーマンス向上につながるコンディショニング」、医療栄養学科が「身近な食品で考えるスポーツ栄養学」、鍼灸サイエンス学科が「身体のアンバランス箇所を東洋医学的にチェック!動きを良くするツボ刺激で障害予防」、救急救命学科が「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」という内容で実施しました。

学科教員と学生たちからアドバイスを受けた参加者からは「スポーツと成長期で消費するエネルギーを、十分な食事で補給することが大切と学びました」「身体の体幹バランスについて知識を得たので、スポーツに活かしていきたいです」など好評をいただきました。

また、特別ゲストとして「伊賀 FC くノ一三重」のプロサッカー選手 4 名が参加され、フェスを大いに盛り上げていただきました。今後、さらに内容を充実させて開催する予定ですので、是非ご参加ください。

＜鍼灸サイエンス学科＞



2024 度 医療人底力教育 アカデミックフェアを開催

医療人底力教育センター・薬学部 薬学科 教授 福田 八寿絵

1 月 7 日(火)白子キャンパス講堂にて、「2024 年度 医療人底力教育アカデミックフェア」を開催しました。本授業を通じて、学科間や教員間の交流を深めることができました。

初年次の「医療人底力実践」は全 1 年生を対象とした必修科目です。学生は学科を横断して 14 クラスに分かれ、協力しながら学ぶ経験を積みました。アカデミックフェアでは、各クラスの担当教職員による評価で選ばれた優秀者 14 名と、学生評価で選ばれた優秀者 1 名が表彰され、豊田学長から賞状が授与されました。表彰後、各クラスの優秀者たちがプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションでは医療福祉や社会課題をテーマに取り上げ、収集した情報を基に分析・整理し、図表やイラストを効果的に活用しました。各発表は、問題意識を持ち、意欲的に取り組んだ姿勢が感じられる素晴らしい内容でした。

また、「医療人底力実践」の振り返りでは、学生から「課題発見力、情報収集力、情報分析力と整理・表現力を学ぶことができた」「自分で考えた議題を様々な立場から考察し、グループメンバーの意見を取り入れながら、より良いプレゼンテーションを作成できた」といった感想が寄せられました。

AI が進化する現代において、情報の真偽を自ら判断し、自分の言葉で他者に伝える力や、他者と協力しながら課題に取り組む能力はますます重要になっています。今後も、この授業で得た学びをさらに発展させていくことを願っています。

最後になりましたが、ご協力いただいた教職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。



消防団活動の取り組みについて表彰を受けました

保健衛生学部 救急救命学科長 丸山 一男

1 月 12 日(日)三重県消防学校で令和 7 年鈴鹿市消防出初式が行われ、式典では本学が表彰を受けました。出初式には救急救命学科の学生 7 名が参加しました。また、3 月 16 日(日)津市白山総合文化センターで開催された第 76 回三重県消防大会では、本学の消防団活動への取り組みが三重県知事表彰を受けました。

鈴鹿市消防団機能別団員(学生団員)は学官連携の取り組みを機に令和 6 年 4 月に結成され、救急救命学科の 3 年生と 2 年生の計 25 名が学生団員に任命されました。これまで火災予防イベントや救急講習、自治会訓練、消防出初式への参加など、様々な経験を積んできました。また、同年 7 月には新たに本学が鈴鹿市消防団協力事業所として認定されるなど、活動が評価され今回の表彰に至りました。

今後も消防職員や現役・OB の消防団員からの指導や訓練を受けながら消防団活動に積極的に参画し、大学で学んだ知識や技能も活用して、地域防災力向上を目指してまいります。



SUMS 自然農園が「みどり戦略学生チャレンジ賞」を受賞

保健衛生学部 医療福祉学科 助手 西村 誠

千代崎キャンパス講義棟の間にある 36m² の畑、それが SUMS 自然農園です。「農福連携」の観点から、福祉と連携する地域課題の解決を図り、地域共生社会の実現を発信しています。農園の新たな試みとして、令和 6 年から「御園大根」や「三重なばな」といった伝統野菜の種採りを行っています。近年、三重の伝統野菜を栽培する農家は減少傾向にあり、このままでは三重在来の品種が栽培されなくなってしまう可能性が高まっています。この課題への対応として、伝統野菜を自然栽培して種を残すことを繰り返し、絶滅の危機にある野菜を保存する取り組みを始めています。また、伝統野菜の種蒔きや収穫には、地域の子どもたちと保護者の方々を招いて、学生と一緒に野菜の栽培を楽しんでもらっています。これらの取り組みを農林水産省「第 1 回みどり戦略学生チャレンジ」へ登録して、活動報告が評価され、チャレンジ賞を受賞しました。3 月 24 日(月)に SUMS 自然農園にて、代表学生 2 名が東海農政局より表彰を受けました。今後も、保存する三重在来の野菜を増やしていくとともに、障がいのある方の社会参加や地域交流の場として、農園の活動がますます発展していくことが期待されます。



日本診療放射線技師会の学術奨励賞を受賞

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 山下 剛範

12月7日(土)～8日(日)岐阜県にて開催された第16回中部放射線医療技術学術大会において、私の発表が日本診療放射線技師会の学術奨励賞を受賞しました。この研究内容は文科省科学研究費の助成を受けて実施しています。

がんの罹患者数は年々増加し、肺がんの罹患者数、死亡者数も増加しています。がん治療の一つである放射線療法は、肺がんなどの胸部腫瘍に対する重要な治療法の一つですが、どうしてもがんに隣接する正常組織に放射線が曝露されてしまいます。そのため肺炎や肺線維症などの放射線誘発性肺障害が起こり、患者さまの呼吸や生活の質に影響を及ぼすことが問題となっています。

今回の研究発表では、「タウリンの放射線誘発性肺線維化緩和機構」と題して発表し、胸部腫瘍に対する放射線療法で起こり得る肺線維症をタウリンが緩和する機構を示しました。放射線療法で問題となる放射線誘発性肺障害緩和の可能性を示したことが、今後の医療に寄与できると評価され、今回の受賞につながりました。

今回、評価を受けたことで、今後も研究に真摯に取り組む活力となりました。



「国家試験頑張って！食事会」を開催

1月24日(金)学生寮生を対象に「国家試験頑張って！食事会」を開催しました。この会は、国家試験を目前に控えた4・6年生を激励する目的で、毎年開催されています。

会の冒頭では、高木副学長や学生寮に関わるスタッフの方から応援の言葉をいただきました。その後、国家試験を受験する4年生からは、「残された時間でしっかりと勉強をがんばって、試験に挑みます」といった力強い抱負が聞かれ、下級生からは「体調に気を付けてがんばってください」「試験までの1か月間で集中して勉強に励んでください」といった温かいエールが送られました。

受験を控え、プレッシャーの中で日々努力を続ける4・6年生を、寮生全員で応援していきます。

今後もこのような交流を通じて、寮生同士の絆を深めていきたいと思っています。

＜学生課＞



作業療法士国家資格を手に新たなスタートを

保健衛生学部 リハビリテーション学科 教授 中井 桂司

2月に行われました、第60回作業療法士国家試験において、保健衛生学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻の受験者の合格率が、100%(全国平均 85.8% 新卒全国平均92.5%)を達成しました。

これは、もちろん、受験した皆さん一人一人の努力の成果なのですが、それを支えてきた本学および当専攻の教員全員の努力が結実したものともいえます。

作業療法士という国家資格をめざし、単なる受験対策のつめこみ授業ではなく、1年生から一貫した統合的なカリキュラムを構築し、また、多様性のある学生一人一人に対し、個別にきめ細やかな学習支援を継続的に実施してきました。

もちろん、国家試験合格は最終目標ではなく一つの通過点であり、作業療法士という国家資格を手に、本学卒業生の皆さんが、この大学で学んだ知識と経験をもとに、それぞれの臨床の場で、期待に応えて活躍されることが、私たちの最終目標です。

受験した皆さん、合格おめでとうございます。そして、私たちは、このすばらしい成果を継続して報告できるよう、がんばっていきます。

第71回臨床検査技師国家試験の結果について

保健衛生学部 臨床検査学科長・臨床検査学専攻長 教授 米田 操

臨床検査技師国家試験が2月19日(水)に実施され3月21日(金)に合格発表がありました。本年度は、4年生55名が卒業して合格率は94.5%でした。本年度も教員は補講、精神的ケア、面談等を実施して、少しでも多く合格できるように努力してきました。学生は臨床検査技師になることの意味を理解してがんばったと思っています。近年、臨床検査技師の現場は、大きな変革が行われています。組織採取、静脈路確保等の業務拡大や在宅医療への参入、新規遺伝子検査室の設立と幅広く医療に携わります。今後は、高度な医療に対応できるコミュニケーション能力を兼ね備えた臨床検査技師育成を目指しがんばっていききたいと思っています。学生には4年間、楽しく学び、喜びを追求し、自分自身の世界を広げていくことを求めています。

新基礎教養科目がスタート！

基礎教養教育部会長・保健衛生学部 医療栄養学科 教授 若林 成知

基礎分野科目には、本学ならではの「医療人底力教育」に加え、「人間と生活」「科学的思考の基盤」など、幅広い教養を身に付け豊かな社会生活を送る上で大切な科目群があり、2025年度からリニューアル開講されます。

国際化が急速に進展しつつある今日、平和・健康・繁栄を願う私たちにとって、地球的視野を身に付けることの重要性が高まっています。新科目の「国際理解」や「グローバルヘルスと日本」で学びます。本学が立地する“三重”に目を向けた「三重を学ぶ」では、伊勢型紙、伊賀忍者、本居宣長などをやわらかに語っていただきます。「ボランティアと災害支援」では、能登半島地震で災害支援活動にあたった講師から、将来、医療・福祉専門職従事者として主体的に行動できる心構えを学びます。

ボイストレーニング、リフレーミングなどのスキルの習得を目指す「コミュニケーションの大切さ」の講義は、アナウンサーやラジオパーソナリティーの方が担当します。ところで、豊かで便利な生活と長寿を獲得した今日も、社会は科学技術の更なる発展を期待しつつ、一方でそれに対する不安も抱えています。「科学と社会」では、今後これらがどのように影響し合い発展するのかを考えます。

新入生の皆さん、これらの魅力ある科目を通して知性と感性を磨き、患者さまに寄り添える医療人を目指しましょう。



「三重を学ぶ」担当の画家・中村麻美先生の「松坂の一夜」

初めてづくしの「事例で学ぶ多職種連携」

保健衛生学部 放射線技術科学科 教授 野田 孝浩

3月末の3日間、3年生を対象とした集中講義「事例で学ぶ多職種連携」を実施し、私は初めて担当教員として参加しました。2024年度から初めて救急救命学科が参加したこともあって多くの学生が受講し、全学科から119名が履修しました。なお、この講義の履修者には、「SUMS多職種連携教育Basicコース修了証」が授与されます。

本講義では、ワークショップ形式で模擬患者の抱える問題を抽出し、多職種からなる学科混合チームでケアプランを立案しますが、今年度より初めてAIを導入し、不在職種の代用とするトライアルが加わりました。

受講者は、4年次の病院実習や就職活動の直前に多職種連携の意義や、難しさや面白さの両面を体験できたようでした。学生からの振り返りは、「各職種が持つ情報の共有が重要であると実感できた」「チーム全体がよくまとまっていた」「他のチームの発表から自職種に求められることを知ることができた」などで、多職種連携の重要性だけでなく、自職種の役割を再確認する良い機会になったことが伺えました。



本学における多職種連携教育は、4年次の「実践で学ぶ多職種連携」へと続き、全て履修した受講者には「SUMS多職種連携教育Advancedコース修了証」が授与されます。4年間にわたる多職種連携教育のコンプリートは、自信と誇りにつながりますので、新3年生には是非「事例で学ぶ多職種連携」を履修してほしいと思います。今年度は2026年3月23日、25日、26日に開講予定です。

最後に、ご指導・ご助言を賜りました担当教職員の皆さまに感謝申し上げます。

H&Nサークル 農林水産省「第1回みどり戦略学生チャレンジ(全国版)」に参加して

H&Nサークル・保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 4年 村田 朋香

農林水産省はSDGsや環境への対応が不可欠であるなかで、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するための政策方針として「みどりの食料システム戦略」を策定しました。この戦略の実現に向けては「調達、生産、加工・流通、消費」の各段階の関係者が一体となり、環境負荷低減に取り組む必要があります。

私たちH&Nサークルは「消費」に関わる「食品ロス」に注目しました。食品ロス統計調査より、野菜の一人当たりの廃棄量が多いことから「野菜の食品ロスの削減について」取り組みました。野菜の可食部や廃棄部の認識、廃棄量について、医療栄養学科の学生を対象に調査を行い、調理過程で野菜の廃棄量を減らすための廃棄部の活用方法をSNSにて発信しました。そして、この取り組みを「第1回みどり戦略学生チャレンジ(全国版)」大学・専門学校の部に発表しました。「みどり戦略学生チャレンジ」への参加で、野菜の食品ロスについて知るきっかけになり、これからの環境作りのためにも、食品ロスを少なくするために家庭や調理での廃棄部の活用方法の大切さを知ることができました。

薬学部独自の入学前教育プログラムがバージョンアップ

薬学部 薬学科 准教授 藤原 朋也

薬学部では、新入生が大学での学び・生活をスムーズにスタートできるように、2021年度から学部独自の入学前教育プログラムを実施しています。本プログラムは、早期に受験が終了する総合型・推薦型選抜入試合格者を対象として、高校理科(物理・化学・生物)に関するeラーニング形式の演習とハイブリッド形式の講義、在学生との交流会で構成されており、2月初めから入学直前まで行われます。

今年度は、同級生との「横の繋がり」や上級生との「縦の繋がり」をこれまで以上に深めてもらうためにグループ学習を新たに導入し、本プログラムをバージョンアップさせました。

参加者は例年とほぼ同程度の32名で、薬学教育センターの教員3名と在学生11名(1～3年生)でサポートしました。2月1日(土)のプログラム初日には、eラーニングシステムの説明と習熟度テスト、グループ学習のトライアルを実施しました。以降、1ターム(2週間)につき2科目ずつ演習、講義およびグループ学習に取り組んでももらいました。初の試みであるグループ学習では、高校理科の問題に対して、同級生同士や上級生と活発に議論しながら取り組む様子がみられ、期待どおり縦横の交流が例年以上に進んでいる印象を受けました。



救急救命学科で行われる内科学の講義について

保健衛生学部 救急救命学科 教授 大西 健児

救急救命学科の2年生を対象に行われている内科学を担当している大西健児と申します。総合内科専門医の資格を有しています。

内科学で扱う疾患は急性期疾患と慢性期疾患に大別され、いずれも多く多くの疾患が存在します。救急救命士にとって内科学の知識は必須で、特に急性期疾患に関する病態生理の理解や、救急時対応の知識と実践力が必要とされています。そのため、内科学の授業は内科疾患のうちの急性期疾患や、急性期疾患の様相を呈する慢性期疾患に重点を置いた内容となっています。疾患例を挙げれば、脳血管疾患、閉塞性や拘束性呼吸器疾患、虚血性心疾患、解離性や閉塞性動脈疾患、急性腹症を呈する消化管や肝胆膵疾患、中枢神経系感染症、さらには救急隊員の感染防止の観点から、結核、麻疹、水痘、COVID-19などのヒトからヒトへ感染する疾患も扱います。これらの疾患について、学生自身が理解するのみならず、他者へその内容を説明できるようになることを目標としています。

このように救急救命学科で行われる内科学の範囲は広大です。当然ながら1回の講義で扱う疾患は多く、予習と復習がなければ疾患概念を理解することすらも困難です。つまり、学生には自主的な学習が要求されます。ご家庭におかれましても、保護者の方々から学生への「普段から自主的に勉強するように」とのお声がけをお願い申し上げます。

看護学部・国際交流委員会主催 ハワイ看護研修

看護学部国際交流委員会・看護学部 看護学科 助教 山下 道世

3月9日(日)～14日(金)にかけて、看護学部国際交流委員会主催のハワイ研修を行いました。1年生9名、3年生1名、看護学部教員2名に、添乗員1名と引率教員1名が同行し、4施設を訪問しました。ハワイで唯一の医学部があるハワイ大学医学部に併設されたSim Tiki Simulation Centerでは、心不全患者の看護についてシミュレーションを用いた学習を体験しました。学生は、瞬時に状況を把握し、適切に対応することの難しさを感じながらも、熱心に取り組みました。また、U.S. Renal Care透析センターでは、医師、看護師、臨床工学技士などの他に、Patient Care Technician(PCT)やソーシャルワーカーが常駐し、明確な役割分担がされ、多職種協働で患者中心のケアが実践されていることを学びました。Adventist Health Castle病院では、相手を必ず名前前で呼ぶなど、患者やスタッフ同士の考え方や立場の違いを超えて互いを尊重し合う姿勢を重視していました。日系人が多く入居するPalolo Chinese Home高齢者施設では、毎日計画的に実践されている認知機能低下予防プログラムに参加し、ビンゴゲームで交流しました。

研修を通して学生からは、「コードブルーだけでなく、ハワイの病院には新生児が連れ去られた時のためにコードピンクがあることなどを知り、自分の常識が覆された」「英語で意思疎通ができ自信がついた」といった声が聞かれました。日本とアメリカの医療や看護師の役割の違いを学び、異文化に触れ、有意義な研修となりました。



市民公開講座のご報告

理学療法学専攻主催「体に負担の少ないストレッチのすすめ」

保健衛生学部 リハビリテーション学科長・理学療法学専攻長 浅田 啓嗣

2月11日(火・祝)千代崎キャンパスにて、リハビリテーション学科 理学療法学専攻主催による市民公開講座を開催しました。数日前には大雪に見舞われ、寒波の残る冷え込みの厳しい日でしたが、100名を超える市民の皆さまにご参加いただきました。

今回は「体に負担の少ないストレッチのすすめ」というテーマで、身体運動学をもとに肩こり・腰痛に対するストレッチの方法を紹介しました。説明後、参加者の皆さまと5種類の肩のストレッチを実施し効果を体験していただきました。この時紹介されたストレッチの方法の一部が、三重県鈴鹿市と亀山市で無料配布されている生活情報誌「Bellve club」3月号でも紹介されました。今回の講座が、皆さまの健康に役立つことを願っております。



本学主催・鈴鹿市後援「災害関連死ゼロを目指した避難生活体験研修 ～基礎編～」

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 齋藤 恒一

3月1日(土)千代崎キャンパスにて、本学主催・鈴鹿市後援による市民公開講座「災害関連死ゼロを目指した避難生活体験研修～基礎編～」を開催しました。

幼児から高齢者まで様々な年代の参加者約100名が、10班に分かれて研修を行いました。グループワークの後、各グループが2種類の段ボールベッドを組み立てました。慣れない作業に苦戦しながら、段ボールベッドが完成すると、参加者からは「しっかりしていてとても良い」「あまり硬さは感じられず腰や背中にそれほど負担はかからない」「プライバシーが保てない」などの感想が聞かれました。

講義に移り、私が三重DWATから災害派遣された経験を交えて「能登半島地震では段ボールベッドが避難所に届くまで約3週間かかった。避難所の開設初期は、避難者の自治により避難所を運営しなければならない。TKB(トイレ・キッチン・ベッド)の整備と地域住民のつながりが大切」と説明しました。また、看護学科の服部由佳准教授が「避難所生活では高齢者・障がい者・乳幼児など要配慮者への支援が必要。熊本地震では直接死の4倍以上が災害関連死、東日本大震災では災害関連死のうち9割が66歳以上の高齢者であった。高齢者特有の問題と支援方法を考えておくことが重要」と解説しました。



平時から地域の皆さまと大学との継続的なつながりが、災害に強いまちづくりには大切です。今後も避難生活体験の研修会を定期的に開催する予定ですので、是非ご参加ください。

附属こころの相談センター主催 SUMS臨床動作法勉強会の報告

SUMS臨床動作法勉強会 代表・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

2024年5月より、月1回(最終金曜日19:00～21:00)本学附属こころの相談センターのグループセラピールームやプレイルームを利用して、SUMS臨床動作法勉強会を開催しています。参加者は臨床動作法に関心のある、三重県内で働く心理専門職、福祉専門職の皆さん、臨床心理学専攻教員、本学大学院生、本学大学院修了生の臨床心理士・公認心理師など。遠くは岐阜県から駆けつけてくださる参加者もいらっします。

そもそも、臨床動作法とは日本の代表的な心理学者の一人である成瀬悟策博士によって開発された、動作や姿勢にアプローチをする心理的援助法です。肢体不自由児・者への動作訓練から始まり、徐々に心理療法へと発展し、現在では健康の保持増進、スポーツ選手へのメンタルトレーニング、災害支援、高齢者支援など様々な分野で活用されている方法です。勉強会では、成瀬博士の著書を読みディスカッションをしたり、その中で紹介される動作課題をセラピストロール、クライアントロールを取りながら練習したり、和気あいあいとした雰囲気の中で学んでいます。とても良い交流の場ともなっています。将来、心理専門職を目指す大学院生にとっては、第一線で活躍中の先輩方と親しく交流し、共に学び合うことを通して、多くのことを学んで欲しいと考えています。手探りで始めた勉強会でしたが、2025年度も継続して開催する予定で準備を進めています。

医療健康データサイエンス学科 はじめての卒業生を送り出しました

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

医療健康データサイエンス学科は、4年前の2021年4月に開設され、はじめての卒業生を3月14日(金)に送り出しました。前身の医用情報工学科にはなかった新規開講科目が多く、教員も手探り状態でしたが、データサイエンスの魅力を学生に伝えることができ、学位授与式での感想では、ほとんどの学生がデータサイエンスに興味を持っており、卒業後、学習内容を利活用できる貴重なデータ人材を輩出することができました。

医療健康データサイエンス学科では、医用情報工学科から続いている卒業研究発表会を2月21日(金)に開催し、今年度の卒業研究生42名全員が発表しました。また教員と学生の投票により、ベストプレゼン賞を選び、学位授与式の日に表彰しました。

研究発表の内容は、国際会議や国内学会で発表した研究内容を含み、生成AIを使用したシステム開発(愚痴聴きシステム、株価予想モデル、対話型進化システムなど)、先端AIシステムの比較、社会課題を解決するWebアプリケーションの開発、教育システム・教材の作成、DX・働き方改革のためのAIシステム、救急医療におけるマイナ保険証の活用、病院求人情報自動収集システムの開発、サウナの効果に関するデータ分析など多様な課題に対して解決方法を提案・評価し、研究発表を行いました。卒業研究題目は、本学科のホームページに公開しましたので、QRコードから参照していただくと幸いです。



学科長から表彰状の授与



4年間を振り返って

医用工学部 臨床工学科(令和6年度卒) 伊藤 亜弥

この度、無事に卒業を迎えることができたのも、臨床工学科の先生方、職員の方々のご指導のおかげと心より感謝しています。

4年間を振り返ってみると、入学当初はコロナ禍ということもあり、人と触れ合う機会も少なく大学生活を楽しく過ごすことができるのかと不安でいっぱいでした。しかし、規制が緩和され、大学に通学し対面で勉強をしていくうちに、そのような気持ちはなくなりました。また、学年が進むにつれて専門の授業が増えていき、勉強をすることがつらくありながらも楽しかったです。

先生方が親身になって就職活動にアドバイスをしてくださったり、国家試験合格に向け勉強を教えていただいたことに大変感謝しています。

そして、4年間で欠かすことが出来ないのが友人の存在です。勉強した日々や学食で食べた日々、ともに過ごしてきた日々は大切な思い出です。

また、家族の存在も欠かせません。私の夢を否定することなく応援してくれたこと、4年間私をサポートしてくれたことは感謝してもしきれません。

今後、それぞれの就職先で社会に出ていくことに不安がありますが、本学の卒業生であることに誇りを持って日々努力していきたいと思います。

最後に、後輩へ一言伝えたいことは、誰か一人でも良いので頼ることができる人を作って欲しいということです。先生や友人、家族、誰でも大丈夫です。就職活動、臨床実習、国家試験とメンタルが弱ることが多くあります。少しでも心身が穏やかに活動できるよう心より願っています。



第31回 卒業記念パーティーを実施

3月14日(金)学位授与式終了後、鈴鹿サーキットホテルにて、第31回卒業記念パーティーを開催しました。高木理事長・豊田学長から送別のお言葉をいただいた後、卒業生の新たな門出を祝して鏡開きが行われました。

花束贈呈や各学科代表の卒業生から先生方への感謝の気持ちを込めたスピーチ、在学生からも贈る言葉をいただくなど温かい雰囲気の中で行われました。今年は巨大な学位記を準備し、撮影スポットも設置。先生方も卒業生も楽しんでおられる姿が見られ、素晴らしい思い出になったと思います。

今回この卒業記念パーティーを開催するにあたり、ご参加いただきました先生方・卒業生の皆さま、そして準備・運営にご協力いただいた関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。



＜卒業記念パーティー実行委員・学生課＞

新任教職員のご紹介



保健衛生学部 放射線技術科学科 特任教授 界 外 忠 之

本年4月より放射線技術科学科に着任いたしました。着任前は民間病院にて約39年間診療放射線技師として勤務し、主に超音波検査を専門としておりました。技師会活動としては、三重県診療放射線技師会の会長職を3期6年務め、現在は日本診療放射線技師会の理事を務めています。病院業務での臨床経験と技師会活動で得た知識を生かし、学生教育と本学の発展に貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 古 屋 かな恵

2025年4月より保健衛生学部医療栄養学科に着任いたしました。着任前は老化疫学分野での研究活動に携わっていましたが、これまで大学や医療機関など様々な領域にも身を置き、多くの方々の助けをいただきながら経験を積んでまいりました。これらを活かして管理栄養士の養成に尽力していきたくて思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 助教 中 原 さおり

本年4月より医療栄養学科に着任いたしました。3月まで三重県厚生連鈴鹿中央総合病院で勤務しておりました。これまでの臨床経験を活かし、学生の皆さんに管理栄養士という職業の魅力をお伝えしたいと思っております。またシームレスな栄養管理をこの地域で実践できるよう努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 田 中 綾

2024年10月より保健衛生学部医療栄養学科助手に着任いたしました。着任前は、社員食堂にて管理栄養士として給食業務を担当しておりました。本学におきましても学生に寄り添ったサポートを心掛けるとともに、これまでの経験を活かし、給食現場の実態について実習を通して学生に伝えていきたいと考えています。至らぬところも多いかと思いますがどうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 松 岡 睦 美

本年4月より医療栄養学科助手に着任いたしました。本学の医療栄養学科を卒業し、地方自治体の管理栄養士として数年務めてまいりました。勤めている中で栄養指導は食事内容の改善だけでなく、対象者の背景を考慮し多職種連携の上での支援が重要だと実感しました。この経験を通して学生の皆さまにお伝えするとともに、サポートが円滑にできるように努めたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 臨床検査学科 准教授 鈴 木 真 紀 子

本年4月より臨床検査学科に着任いたしました。前任でも血液学、血液検査学を中心に臨床検査技師教育に尽力してまいりました。これまでの経験を活かし、臨床検査技師という魅力ある職業に、誇りをもって携わる後進を育てることに、精一杯努めたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 臨床検査学科 助教 蜂 須 賀 大 輔

本年4月より保健衛生学部臨床検査学科に着任いたしました。臨床検査技師として臨床現場および研究分野で働いておりました。学生の皆さんが鈴鹿医療科学大学に入学してよかったと思えるよう学生視点に立った指導およびサポートをしていきたいと考えています。至らぬ点もあるかと思いますが、ご指導の程宜しくお願い致します。



保健衛生学部 臨床検査学科 助教 マイケルス キャサリン ジョーダン

本年4月より臨床検査学科に着任いたしました。英語教師として教育や国際交流に携わり、言語教育を通じて文化理解を深めてまいりました。今後は学生がより一層自信をもって海外や増加する在日外国人の方々と交流を深められるよう、大学の発展に寄与していきたいと考えております。まだ未熟な点多々ございますが、大学の発展に貢献できるよう力を尽くしますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 助教 栗 原 健 太

本年4月より保健衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻に着任いたしました。私は本学の学部卒業生・大学院修了生であり、着任前は鈴鹿市内の急性期病院で様々な分野の理学療法を経験してきました。15年間の臨床経験を活かし、社会や母校である本学の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 助教 石 川 真 太 郎

本年4月より、保健衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻助教として着任しました。17年間、回復期から生活期まで様々なフェーズで経験し、直近は新入職員に対する教育を主として取り組んでまいりました。この経験を活かし、学生の皆さんと限られた4年間の中で成長する喜びを共有し、臨床の楽しさを伝えるとともに、社会貢献のための研究にも取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。


保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 特任教授 畠 中 雄 平

精神科医として、特に神経発達症の臨床と研究に一貫して携わってまいりました。また、臨床心理士、公認心理師の資格も有しており、3月までは臨床心理学の大学教員として勤務してまいりました。本学では、附属こころのクリニックの診療も担当させていただきます。教員としては共感力とネガティブ・ケイパビリティを持った医療人の育成につながるような教育ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。


保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 准教授 高 城 大

本年4月より医療福祉学科に着任致しました。着任前は、地方自治体の社会福祉職に従事していました。その後、保育系短期大学、愛知県内の大学にて社会福祉の教員を務めて参りました。これらの経験を活かして本学では、主に社会福祉士養成に微力ながら貢献したいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。


保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 新 原 寿 志

2025年4月より保健衛生学部鍼灸サイエンス学科に着任しました。現在(公社)全日本鍼灸学会臨床情報部安全性委員会の副部長兼委員を務め、同委員会より「鍼灸安全対策ガイドライン」と「鍼灸安全対策マニュアル」を発行するなど、国内鍼灸の安全性向上に向けた活動を行っています。本学科では鍼灸業界の指導的立場となる人材を育成していきたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。


保健衛生学部 救急救命学科 実務家特別講師 杉 本 光 芳

2025年4月1日付け、保健衛生学部救急救命学科に着任いたしました。これまで、鈴鹿市消防本部45年間、公益社団法人鈴鹿市シルバー人材センター2年間勤務してまいりました。今後は、消防職員(消防隊・救助隊・救急隊)としての活動経験を活かし、救急救命士の育成に努力していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。


医用工学部 臨床工学科 特任教授 片 山 芳 彦

2025年4月に医用工学部臨床工学科に着任いたしました。これまでは三重県立総合医療センター、山田赤十字病院、松阪中央総合病院などで心臓血管外科医、呼吸器外科医として働いてきました。これらの臨床経験をもとに、学生の皆さんが医療の現場を意識した学びができるように努めたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。


薬学部 薬学科 教授 二 村 昭 彦

本年4月より薬学部薬学科に着任いたしました。これまで藤田医科大学で病院薬剤師として臨床に携わりながら、緩和医療学、代謝栄養学、栄養サポートチームの研究・教育を行ってきました。これまでの経験を活かし、本学の発展と社会で活躍できる薬剤師の養成に努めていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。


看護学部 看護学科 助教 横 井 達 枝

本年4月より看護学部看護学科の基礎看護学領域の助教として着任いたしました。研究分野は、看護教育を中心に行っております。これまでの大学病院での臨床経験、看護基礎教育機関での教育経験を活かし、看護師を目指す学生の皆さんの支援、また共に看護を学んでいきたいと思ひます。ご指導、ご支援の程よろしくお願いいたします。


看護学部 看護学科 助手 水 谷 政 貴

2024年10月より、看護学部看護学科の助手に着任いたしました。これまでは、藤田医科大学病院の中央手術室で5年間、四日市消化器病センターの胃腸肝臓眼科病棟で1年間、看護に携わりました。またその後は、三重大学の医学部看護学科にて、育休代替教員として看護教育にも携わらせていただきました。これまでの経験を活かし、学生の皆さんに幅広い看護の魅力を伝えていけるよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。


看護学部 看護学科 助手 山 本 みずき

2025年4月より看護学部看護学科、在宅看護学助手に着任致しました。着任前は、三重県の総合病院で病棟看護師として勤務し、その後は鹿児島県での離島医療や、東京での訪問看護に携わっていました。様々な地域での暮らしと看護を通じ、人間の多様性を実感し、看護の奥深さを感じております。これらの経験を活かし、学生の皆さまと、看護の学びを深めていけるよう努めていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。


大学兼入学課アドミッションアドバイザー 特任准教授 伊 藤 隆 之

本年4月に本学教職員(アドミッション・アドバイザー兼務)として着任いたしました。これまで三重県内の高等学校で生物学を担当し、学校運営を行い、三重県教育委員会事務局では教職員研修に携わってまいりました。これらの経験を活かし、本学の発展、学生の希望実現、社会貢献に微力ながら寄与したいと考えております。学生に寄り添い、共に学び続けるためにも、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー・保健衛生学部 医療福祉学科 助教 平谷 智生

在学生の皆さん、新入生の皆さん。こんにちは、学生相談室カウンセラーの平谷智生です。

さて、新生活ももうすぐ1か月が過ぎようとしています。新入生の方は、右も左も分からないまま大学生活が始まり、様々な苦勞をされてきたのではないのでしょうか。在学生の方も、大学生活には慣れてきたとはいえ、授業はより専門的になり、勉強での大変さが増してきているかもしれません。しかし、4月のうちは新生活をがんばろうとしているので、蓄積していく疲労には気付きにくいことがあります。そして、GW中にどっと疲労が出てしまい、体調を崩してしまうということが起こる場合もあります。

そうならないためには、心身の状態に目を向けることが大切になります。例えば、ストレスが溜まってくるとイライラしたり焦ったり、あるいは頭痛などの身体症状が現れたりします。これらの症状が出た場合は、疲れが溜まっているサインでもあるので、休息をとる(何もせずゆっくり過ごす・趣味などの好きなことをする)ことをお勧めします。

もしそれでも改善に至らない場合や休めない・趣味を楽しめない場合など、一人ではどうしようもない時にはぜひ学生相談室を利用してみてください。



「柚子は大馬鹿？」

桜の時期を過ぎ4月下旬から5月中旬にかけて、おじさん家の庭ではレモンの木が甘ずっぱい香りの小さな白い花を咲かせる。このレモンの木は毎年秋にたくさんの黄色い実をつける。おじさんが気を揉んでいるのはレモンと一緒に植えた柚子の木なんだ。まだ1回も花を咲かせたことがない。ということは、柚子の実が生ったことがないんだ。欠陥商品かと思って調べてみたら、柚子の苗木には、種から育てたものと接ぎ木したものの2種類あることが分かった。ほかの柑橘類に接ぎ木したものは3年くらいで実が生るのに、種から育てたものはなかなか実をつけないと言うんだ。

ことわざで「桃栗3年、柿8年」っていうのを聞いたことあるでしょ。桃や栗は芽が出てから3年で実が生るけど、柿は8年もかかるって言うんだ。でもこのことわざには恐ろしい続きがあったんだ。な、なんと、「桃栗3年、柿8年」に続いて、「柚子の大馬鹿18年」ええっ、18年？柿の倍以上かかるなんて、そりゃ確かに大馬鹿だね。9年くらい経った頃にやっと花が咲き、実が生るまでにはもう9年かかるとか。おじさん、そんなこととは柚子知らず、あっ、ツユ知らずだった。苗木を買う前に調べておけば良かったよ。

「柚子の育て方」っていうのを読んでたら、『種から育てることにこだわりがないなら「接ぎ木」の苗

木を選ぶとよいでしょう』なんて書いてあるじゃないの。時すでに遅し。おじさんにこだわりなんてあるわけないでしょ。でも、確かウチの柚子の木はもう10年くらい経ってるぞ。接ぎ木に植え替えたなら3年で実が生るんでしょ。これ以上待ってる意味ないじゃん。おじさんは、バカ、バカ、融通の利かない柚子並みの大馬鹿だ〜っ。「誰か〜、接ぎ木の柚子を譲ってくれ〜」なんちゃって。

ところで、柚子と言ったら、冬至の日に入る柚子湯が有名だね。冬至を湯治にひっかけて、旬の柚子の強い香りで邪気を払い、柚子にひっかけ融通を願ったとか。融通ってももとは仏教用語で、「物事がスムーズに進む」ことなんだってさ。「冬至の日に入ると1年中風邪をひかない」っていう言い伝えがある。柚子の果皮には、風邪予防や保湿に良いとされるビタミンCや、血行改善を促すと言われるヘスペリジン(ポリフェノール的一种)などが豊富に含まれているって言うから、ホントに湯治の意味があったのかもね。

おじさん家ではレモンがたくさん採れるので、去年の冬至の日には柚子の代りにレモン湯としゃれてみた。果たして効果は？ダメダメ、柚子の偽物なんて、そりゃ絶対譲れないね。いや〜、レモンも結構優レモンだよ。



JST「さくら招へいプログラム」に採択され、天津中医薬大学と国際交流

東洋医学研究所長・保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 有馬 寧

科学技術振興機構(JST)の国際青少年サイエンス交流事業「さくら招へいプログラム」は、産学官の緊密な連携により、海外の優秀な青少年を日本へ招へいし、日本の青少年との科学技術分野の交流や文化に触れていただく事業です。この度、本事業に採択され、中国の天津中医薬大学と国際交流を実施しました。

天津中医薬大学は50年以上の歴史を持つ医療系の公立大学で、医学、理学、文学、管理の4学科や中医学、鍼灸推拿学、中西医结合医学、中薬学、看護学の専攻学科の他に国家重点学科が置かれています。

本学は1991年の開学以来、天津中医薬大学と親密な関係を築いており、特に歴代の学長と公私にわたって親交を深めてきました。1998年に海外友好大学協力協定を締結し、今日に至るまで、天津中医薬大学の若手教員が本学へ派遣され東洋医学研究所で共同研究や学術交流を行ったり、修士・博士課程の大学院生の相互派遣を実施してきました。

本事業により1月14日(火)～23日(木)の10日間、天津中医薬大学から8名(教員2名・大学院生4名・学部生2名)を招へいしました。滞在中は、東洋医学研究所にて鍼灸に関する共同研究課題の実施、本学教員による講演、附属施設の見学など充実した内容となりました。また、華道草月流の基礎を学んでの生け花や、手巻き寿司作りなどを体験し楽しい時間を過ごしていただきました。9日目には研究成果のまとめと修了式に臨み、全ての行程を締めくくりました。



短い期間でしたが、共同研究と医療科学技術文化の交流を通じて、日中双方で国際的な視野を持つ若い研究者の育成強化を図ることができたと感じています。また、多くの研究者の学術交流と共同研究によって、中国医学の研究成果の転化を促進し、同時に日本の東洋医学の伝統文化に触れてもらうこともできました。今回の取り組みにより双方の絆が深化し、今後の共同研究がますます活発に発展することを期待しています。



行 事 予 定

2025年5月～8月

5月6日(火・振替休日) 創立記念日
10日(土) 補講日
18日(日) 第1回オープンキャンパス
24日(土) 補講日
28日(水)～31日(土) 春期定期試験と解説
6月2日(月)～3日(火) 春期定期試験と解説
7日(土) 補講日
15日(日) 第2回オープンキャンパス
21日(土) 補講日
28日(土) 春期追・再試験
7月5日(土) 補講日
12日(土) 第3回オープンキャンパス

7月16日(水) 補講日
17日(木)～18日(金) 前期定期試験
21日(月・祝)～25日(金) 前期定期試験
28日(月)～8月2日(土)
前期・夏期定期試験と解説
8月3日(日) 第4回オープンキャンパス
4日(月)～9月2日(火) 夏季休業
8日(金)～18日(月) 夏季一斉休暇
22日(金)～23日(土)・25日(月)～28日(木)
前期・夏期 追・再試験
30日(土) 第5回オープンキャンパス

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。